

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

「恋人の聖地」夕陽を愛でる日本一の聖地づくりプロジェクト

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

大分県豊後高田市

## 3 地域再生計画の区域

大分県豊後高田市の全域

## 4 地域再生計画の目標

### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

「恋叶ロード」の中間点に位置し、夕陽百選に選定されている「真玉海岸」は、夕陽が照らす海と干潟の縞模様が魅せるコントラストが美しく、天候と干潮のタイミングがよい日や潮干狩りシーズンは多くの観光客で賑わっている。また、SUP やカイトサーフィンなどマリンアクティビティも盛んにおこなわれている。

しかし、「真玉海岸」の年間入込客数（令和2年）は57,597人となっており、他の恋叶ロード主要観光地（「昭和の町」（恋叶ロード出発点）182,460人、「長崎鼻」（恋叶ロード終着点）112,679人）の入込状況から、多くの観光客が中間点の「真玉海岸」を素通りしているケースが読み取れる。また「昭和の町」で実施した来街者アンケートにおける「昭和の町以外の立ち寄り場所」で「真玉海岸」を選択した観光客は僅か3.8%（令和2年11月調査）となっており、「真玉海岸」自体が観光客を上手く取り込めていない状況となっている。さらに、「真玉海岸」にある現行の唯一の観光施設（以下、「現施設」）の年間入込客数は約19,000人で、夕陽鑑賞や潮干狩りなどの「真玉海岸」に訪れる観光客自体の需要も賄いきれておらず、「稼ぐ施設」となっていないのが現状である。

要因としては、現施設自体が狭隘で老朽化しており、また、施設そのものに

観光客や地域住民を惹き寄せるだけの機能、コンテンツが不足しているため来訪ニーズに即していない点が挙げられる。

上記を踏まえ、令和3年度に実施した恋叶ロード活性化基本構想策定事業における利用者意見調査等から、現施設及び真玉海岸の構造的な課題を整理すると以下のとおりとなる。

■ レストランの収容人数は最大36人と狭隘で、夕陽鑑賞に最適な日時、潮干狩り等で多くの来訪で賑わう際の需要を取り込めておらず「稼ぐ施設」になり得ていない。また、施設構造上、半数以上の席から海を臨むことができず、好立地のメリットを活かしきれていない。

■ トイレは男性（小便器3、大便器1）、女性（便器3）ともに便器数が少なく老朽化しており、また、女性トイレ3つのうち1つしか洋式化されておらず、多目的トイレも設置されていないため利用者ニーズに即していない。

■ 真玉海岸には多くの夕陽鑑賞者、カメラマンが訪れるが、現施設に展望場所がなく、海岸護岸や国道脇で鑑賞しており、特に国道脇では危険を伴っている。来訪者からも高い場所から安心して鑑賞できる展望台の設置ニーズが高い。

■ マリンアクティビティ利用者や海水浴客が利用するシャワー室（4カ所）は狭隘で更衣室がなく利用者ニーズに即していない。

■ 「恋叶ロード」や国東半島全体に観光客を送客する広域観光のポータルとなり得る立地にあるものの、現施設に観光案内機能が整備されていないため、その機能を果たせていない。

■ 現施設がある真玉地域には観光客や地域住民が体験、交流できる施設、スペースがなく、現施設にも、天候などに左右されず通年で利用できる機能がないため、体験、交流イベント等が開催できない。

■ 現施設の駐車場は、駐車枠線がなく身障者用もない状況で、また、駐車スペースと施設の間に進入路が横切っているため、横断時に危険が伴うなど利便性が悪く、利用者ニーズに即していない。

■ 夕陽鑑賞、潮干狩り、食事以外に施設利用するコンテンツが不足しており、現施設そのものに来訪を促すだけの魅力が付加されていないため、「真玉海岸」は年間を通して訪れたい場所になり得ていない。

## 4－2 地方創生として目指す将来像

### 【概要】

大分県国東半島の西側に位置する豊後高田市の風光明媚な海岸線を走る国道213号沿線には、昭和30年代の懐かしい街並みが今に残る「昭和の町」や、大分県で唯一水平線に沈む美しい夕陽を眺めることができる日本夕陽百選に選定された「真玉海岸」、縁結びの神様「粟嶋社」、そして九州最大級の花公園である「花とアートの岬・長崎鼻」など、女性の嗜好にあった観光スポットが点在している。これらの観光スポットを繋げ、「女性、カップルが集まる新たな観光エリア」とすべく、恋が叶う道=「恋叶（こいかな）ロード」（平成28年「恋人の聖地」に認定）と銘打ち、現在同じく「恋人の聖地」に認定されている全国17市町村と連携し、プロモーション事業など誘客促進事業を行っている。

しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年の本市全体の観光入込客数は過去最低の約726,000人（対前年比▲39.8%）まで落ち込み、地域経済にとって厳しい状況が続いている。その中において、全長約20kmの「恋叶ロード」沿線主要観光地（昭和の町、真玉海岸、長崎鼻）における令和2年観光入込客数は約353,000人で、市全体の約半数を占める一大観光地となっている。また、「恋叶ロード」からは山間部（国東半島中心部）に通じる主要幹線道路にすべて繋がっていることから、「恋叶ロード」の活性化は、神仏習合の地として独特の仏教文化が花開いた国東半島六郷満山ゆかりの寺院（国宝富貴寺大堂など）への誘客など面的な波及効果が期待され、海辺の活性化に留まらず、市全体の活性化を図る上で高いポテンシャルを有している。その中でも「恋叶ロード」の中間点に位置し、立地的に広域観光への波及効果が最も期待される「真玉海岸」は、本市観光浮揚の重要な鍵を握っている。特に真玉海岸にある現行観光施設（令和2年度事業収入15,400千円）は地域活性化の核となる高いポテンシャルを有している。

また、当市の人口は、令和2年の国勢調査で22,112人（前回比▲741人）となっており、市をあげた移住定住促進施策により減少率は鈍化しているものの、依然として少子高齢化、都市圏への人口流出による人口減少に歯止めがかからず、地域の衰退が懸念されており、まずは交流人口の拡大を図る施策が求めら

れている。

以上のことから、本市固有の地域資源であり、強みである「恋叶ロード」（真玉海岸）をさらに魅力ある観光地としてプラスチッシュアップし、点から線へ、そして面的な観光振興を図ることにより、特に福岡市、北九州市、大分市などの近隣都市圏からの誘客を促進させ、交流・関係人口の拡大、そして最終的にしごとの創出による地域活力の流れを生み出すことができる地方創生としての将来像を目指す。

#### 【数値目標】

KPI	事業開始前 (現時点)	2022 年度増加分	2023 年度増加分
		1年目	2年目
真玉海岸観光交流拠点施設の年間 売上額(千円)	15,400	0	7,700
真玉海岸の観光入込客数(人)	57,600	0	17,280
恋叶ロード関連観光施設の入込客 数（栗嶋公園・長崎鼻リゾートキ ャンプ場）(人)	124,500	0	12,450

2024 年度増加分 3年目	2025 年度増加分 4年目	2026 年度増加分 5年目	KPI 増加分 の累計
1,155	970	757	10,582
3,744	3,145	2,453	26,622
6,848	5,752	4,486	29,536

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

海べでつなぎ夕陽を愛でる日本一の聖地づくりプロジェクト

##### ③ 事業の内容

本事業では、真玉海岸における狭隘で老朽化し、観光客ニーズに即していない現施設を除却し、それに代わる新たな観光交流拠点施設（以下、「新施設」）を以下5つの基本コンセプト（施設の目的）により整備し、「真玉海岸」、「恋人の聖地関連観光地」、及び「本市全体」の活性化の拠点とする。特に真玉海岸では夕陽鑑賞や潮干狩り以外の集客力が大きな課題となっているため、新施設において、AR（拡張実現）技術を活用した夕陽鑑賞や、オンラインでのヨガ講座、ミーティング開催を可能とするなど、デジタル技術を活用したコンテンツ造成を行い、周年で観光客に施設利用を訴求できる魅力を付加する。

##### 【基本コンセプト】

基本コンセプト①：「真玉海岸」の観光拠点化による観光振興を目指す。

基本コンセプト②：「恋叶ロード」の動線にある観光地の集客増を目指す。

基本コンセプト③：本市及び国東半島全体の誘客に繋がる観光振興を目指す。基本コンセプト④：カーボンニュートラル実現に配慮した環境負荷の低減を目指す。基本コンセプト⑤：新たな観光ニーズに即したデジタル技術を活用した観光振興を目指す。

##### 【実施予定の事業等】

上記目的を実現するため、現施設には整備されていない以下の機能を付加した施設を新設する。

- ・年間を通じて誘客を促す、海の絶景と地域食材を活用した食が楽しめる  
レストランの整備  
(レストラン収容人数：54人)
- ・ニーズに即した洋式トイレ、多目的トイレの整備
- ・年間を通じてカメラマンや観光客が快適に夕陽を撮影できるように、1  
階、2階及び屋上に広い撮影スペース（テラス、デッキ）を整備（屋上展  
望デッキ面積：約 160 m<sup>2</sup>）
- ・ニーズに即した更衣室付きシャワー室の整備
- ・本市及び国東半島広域観光の核となる観光案内、情報発信スペースの整  
備
- ・夕陽を眺めながらヨガやミーティング等が開催できる多用途コミュニテ  
ィースペースの整備（※施設内無線 LAN、オンライン会議用機器の整備）（収  
容人数：30人）
- ・年間を通して誘客を促す、AR を活用した文化財、観光素材（真玉海岸の  
夕陽）の鑑賞体験機能の整備
- ・マリンアクティビティ、潮干狩り客のための施設（洗い場、倉庫）整備
- ・サイクルツーリズム促進（国東市との連携）のためのサイクルハブ機能  
の整備
- ・環境への負荷を低減するとともに、施設維持管理費を抑制するための太  
陽光発電機能（自家消費型）の整備
- ・利用者ニーズに即した利便性の高い駐車場の整備（施設側に駐車スペー  
スを確保するとともに、枠線、身障者駐車スペースの整備）
- ・津波避難所としての機能を付加するため屋上テラスに昇降できる外階段  
の整備

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

本事業で整備する真玉海岸観光交流拠点施設は、NPO 法人地域活性化  
支援センターが全国の観光地の中からプロポーズにふさわしいロマンテ  
イックなスポットとして「恋人の聖地」に認定している「恋叶ロード」  
に位置し、日本夕陽百選に選定され、また国の登録記念物に登録されて

いる真玉海岸に立地する。当該地は観光客が訪れる高いポテンシャルを有しており、これまでも天候と干潮のタイミングがよい日や潮干狩りシーズンは多くの観光客で賑わっている。しかし現施設は狭隘で収容人数も少なく、観光客ニーズに合致しておらず、また、悪天候日やシーズンオフは、施設自体に来訪を促す魅力がないため、年間を通じた安定的な集客力に大きな課題を抱えている。

本事業で整備する交流拠点施設は、施設総面積で従来施設の2倍となり、また、海や夕陽を眺めるレストラン・展望デッキ・テラス、ヨガやミーティングが開催できるコミュニティルーム、広域観光のポータルとなる観光案内機能を付加させ、真玉海岸の立地を最大限に活かし、施設自体に誘客を促進する価値、魅力を付加するため、収益性の向上が図られ、自立化は可能である。

収益の核となるレストラン収入については、現施設より収容力が1.5倍となるため、事業開始年度は事業開始前の1.5倍の収入を見込み、その後は稼働率向上を図ることにより収入増を見込む。また、新たな収入としてコミュニティルーム、アクティビティ用の倉庫の利用料を見込む。

### 【官民協働】

本施設整備にあたって、真玉海岸の立地を最大限に活かした魅力的な施設とするため、整備基本構想を策定し、その構想に基づき整備する。基本構想策定にあたっては、大学、有識者、真玉海岸来訪者及び地域住民などから幅広く意見聴取を行い整備内容に反映させることにより、産・学・官連携により実施する。

また、完成後の施設運営にあたっては、民間ノウハウを最大限に活用するため、民間事業者に運営を委託する予定である。施設運営に係る行政からの支援は行わず、情報発信事業をはじめとする誘客促進事業を官民協働で実施することにより、施設集客力を高めていく。

#### 【（1）民の役割】

①新施設管理運営事業者・・・民間ノウハウを活かし各種民間団体と連携を図り、夕陽コンサートなどイベント実施を含めたソフト事業も絡めて利用率、収益性の向上を図る。

- ②豊後高田市観光協会・・・新施設及び恋叶ロード全般の情報発信を図るとともに、官民と連携したイベントを実施する。
- ③豊後高田市観光まちづくり株式会社・・・昭和の町及び広域観光をマネジメントする同社は、新施設を含めた恋叶ロードのモデルコースについて、市と連携し旅行会社等へアプローチする。
- ④パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会・・・恋叶ロードを核にタラソテラピー（海洋療法）を中心としたヘルスツーリズムを推進する同協議会は、真玉海岸や新施設を活用したヨガ体験イベント等、ヘルスツーリズム事業を実施する。また、オンラインで他地域の講師によるヨガ等の健康教室、セミナー等を開催することで交流・関係人口の拡大を図る。
- ⑤西国東商工会・・・真玉、香々地地域の商業者で組織する同商工会は、新施設を活用した交流イベント等の開催や新施設の情報発信を行う。

### 【（2）官の役割】

- ①豊後高田市：地域間交流、交流・関係人口を通じた地域活性化に資する拠点として施設整備は市が実施する。施設利用について、市は（1）の民間事業者、大分県、国東市等と連携し、新施設への誘客促進に資する事業を協働で企画・実施するとともに、市HP等を活用した情報発信、都市圏で開催される商談会において、新施設を含めた恋叶ロード全体への誘客宣伝を行う。
- ②大分県：本市との連携組織である「おおいたノースエリア連携協議会」において、恋叶ロードへの周遊イベント及び情報発信を行う。
- ③国東市：本市との連携組織である「国東半島誘客促進協議会」において、恋叶ロードへの周遊イベント及び情報発信を行う。
- 新施設の運営にあたっては、施設の利活用時において市の一般財源による措置は行わず、管理運営を行う民間事業者からの資金の活用を見込んでいる。

### 【地域間連携】

国東半島を構成する本市及び国東市は、同じ風光明媚な海辺の道である国道213号で結ばれていることから、これまで海を愛する両市の美し

い自然景観を活かした観光促進を図るため、両市を跨ぐサイクルルートを設定するなど、協働して誘客促進事業を展開している。また、両市は神仏習合発祥の地として独特の仏教文化である六郷満山文化や美しい自然景観を共有しており結びつきが強い。本事業で整備する観光交流拠点施設は、国東半島地域全体への周遊を促すことができる立地であることから、施設に国東半島全体の広域観光振興のポータルとして、両市の情報発信機能を付加させることにより、地域間連携をさらに強力に推進する。また、国東市との連携組織である「国東半島誘客促進協議会」（構成市：豊後高田市、国東市（事務局：国東市））の以下の事業を通じて、両市協働で国東半島への誘客を促進し、地域の活性化を図る。

- ・新施設を含めた両市の観光スポットを周遊するイベント（観光地スタンプラリーイベント等）の開催
- ・新施設を含めた恋叶ロード、及び国東市側の海辺を活用したサイクルイベントの開催

以下、両市の役割分担、及び期待される相乗効果

#### 【豊後高田市】

- ・新施設の観光案内所において、国東半島誘客促進協議会の周遊イベント情報の発信のほか、国東市全般の観光情報の発信を行う。
- ・新施設のサイクルハブを活用した国東市とのサイクルイベントを企画し、実施する。

#### 【国東市】

- ・国東半島誘客促進協議会の事務局市として、新施設の活用を含めた国東半島周遊イベントの企画・取りまとめを行い、豊後高田市と協働実施する。
- ・新施設における国東市観光情報の提供と合わせ、国東市にある観光案内所においても、新施設の PR を含めた豊後高田市観光情報を発信するなど、両市が連携し相互送客を図る。

#### 【期待される相乗効果】

- ・新施設を中心に両市が連携し、全国に向けて観光情報を発信することで、単独市の取組では実現できない相互送客が可能となり、国東半島全

体への一層の誘客促進が図れ、地域活性化が期待される。

・新施設を含めた国東半島主要観光地を巡る周遊イベント等の開催により、国東半島内における観光客の周遊性、及び滞在時間の延長が図られ、地域経済への波及効果が期待される。

### 【政策間連携】

新施設では、単に観光振興に留まらず、地域間交流、活性化の拠点としての機能を付加させ、政策間連携を通じて交流・関係人口の創出などの政策効果を高めていく。

**【農業振興】** 新施設のレストランで、地域特産品である豊後高田そば等を提供するなど、市農業振興課、豊後高田そば生産組合等と連携することにより、豊後高田そば等地域特産品の消費拡大、認知度拡大を促進し農業振興を図る。

**【健康増進】** 真玉海岸では、沈みゆく夕陽をバックに干潟でヨガも開催されており、新施設内でのヨガやタラソテラピー（海洋療法）によるリラクゼーションなど、ヘルスツーリズムの取組を通じて、市健康推進課、パーカクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会等と連携することにより、市民、観光客の健康増進を図る。

**【交流・関係人口の拡大】** 本施設を活用した婚活パーティ、移住希望者による交流会など移住・定住に繋がるイベントの他、ヘルスツーリズムの体験プログラムメニューの実施や地域特産品を活用したフードイベントの開催などを通じて、交流・関係人口の拡大を図る。

**【環境政策】** 新施設に太陽光発電機能を付加させ、再生可能エネルギーによる施設運営を行うことで、二酸化炭素排出量を抑えたカーボンニュートラル実現に配慮した取組を行う。また、市民による真玉海岸清掃活動や、大分市から豊後高田市までの海岸線を有する自治体で組織する「日本風景街道・海べの道推進協議会」が実施する海辺の清掃活動を実施するなど、環境政策との連携を図る。

**【防災政策】** 新施設の整備地区は海岸部にあり、高い建物がないため、新施設には地域の津波避難所として非常時に屋上に避難できるように外階段を整備するなど、防災政策との連携を図る。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（ＫＰＩ））

4－2の【数値目標】と同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

**【検証時期】**

毎年度 6月

**【検証方法】**

外部有識者の産官学金労言及び民で構成する「豊後高田市まち・ひと・しごと“全力”創生プラン」の総合戦略会議を6月に開催し、前年度の実績の報告を行い、専門的な助言をいただく。KPIの達成状況だけではなく、KPI以外での事業効果についても検証を行う。助言内容については、当該年度の事業実施や新年度予算編成への反映を行っていく。

**【外部組織の参画者】**

産：豊後高田商工会議所、官：大分県、学：大分県看護協会、市教育委員会、金：大分県農業協同組合、労：連合大分、士：弁護士

**【検証結果の公表の方法】**

豊後高田市ホームページによる公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 382,006千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から令和9年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

### 5－3 その他の事業

#### 5－3－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

## 5－3－2 支援措置によらない独自の取組

### (1) 「恋人の聖地」情報発信事業

#### ア 事業概要

新聞、テレビ等各種メディアを活用し、昭和の町から長崎鼻までを舞台とした幅広い情報発信を行うことで、恋叶ロード全体の誘客促進を図る。

#### イ 事業実施主体

豊後高田市、豊後高田市観光協会

#### ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

### (2) 「恋人の聖地」誘客促進イベント事業

#### ア 事業概要

恋叶ロード沿線を中心とした本市観光協会の加盟店（飲食店及び観光施設）への誘客促進を図るため、夏季シーズンに適した食のイベントや、恋叶ロードの日を記念したキャンペーンを実施するなど、戦略的かつ効果的な誘客プロモーションによる恋叶ロード全体の活性化を目指す。

#### イ 事業実施主体

豊後高田市、豊後高田市観光協会

#### ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

### (3) 「恋人の聖地」地域産業拡大事業

#### ア 事業概要

恋叶ロードのイメージにマッチした観光客に求められる新たな土産品を開発するため、地域内外での消費を目的として、地元の特産品を活用し、地元事業者の技術やアイディアを取り入れた事業を実施する。

#### イ 事業実施主体

豊後高田市、豊後高田市観光協会

#### ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

#### (4) 国東半島周遊イベント事業

##### ア 事業概要

真玉海岸を含む、国東半島主要観光地への立ち寄りを補助要件としたレンタカー等2次交通利用への助成事業や、海辺の道を活用したサイクリングイベントを、豊後高田市、国東市の2市連携で実施することにより、国東半島全体における周遊促進を図り地域活性化を目指す。

##### イ 事業実施主体

豊後高田市、国東市、国東半島誘客促進協議会

##### ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

#### (5) 恋叶ロード誘客対策事業

##### ア 事業概要

真玉海岸を含む、恋叶ロード全体の魅力向上のため、花の植栽など景観整備を実施し誘客促進を図る。

##### イ 事業実施主体

豊後高田市

##### ウ 事業実施期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から令和9年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】と同じ。